

ナショナリズムについての一考察

羽山太郎

最近、尖閣諸島の領域をめぐる中国との摩擦や従軍慰安婦問題での韓国との関係悪化など日本の近隣諸国との関係が危うい状況にある。今日、われわれは急速に発達したインターネットの環境の中で暮らしている。地域共同体やコミュニティが失われた反面フェイスブックやラインといった個人個人の緩やかな関係が大きく広がっている。

そのような中で誰もがブログで自由に自分の思いを言うことができる。個人の意見が情報発信され、インターネットの中で炎上したり、中傷したりで、一時も心の休まる時がない。感情的になり易く、心静かに自己を省みることが無くなってしまった。ヘイトスピーチに代表されるように、集団で他者を排除しようとする動きがあちこちで広がってきている。他者に思いを寄せる余裕が失われ自分と違った異分子を叩こうとする。集団でのいじめである。

日本人はいつからこんな卑怯な人間に成り下ってしまったのか。地方でも地域共同体のコミュニティが失われ、人間同士の関係性の喪失が著しい。以前の日本人は他人のことをあげつらうことにもっと遠慮があったと思う。世間体というものが厳然と存在しており恥ずかしいという心持ちがあったはずである。

中国や韓国の国家的態度をとにかく言うことや他国の人間がどれほど悪いかを知ったところでどうなるものでもない。それより今われわれがすべきことが3つほどある。

ひとつは、日本人はもっと道徳的になり、自らの品性を高める努力をすることである。他人が悪いことをやっても自分は決してしてはならないという道徳的姿勢を堅持して世界の人々から賞賛される民族を目指すべきである。さすが日本人だと言われるぐらいの覚悟を国民全員が持つことである。

二つ目は出来るだけ他国の人と交流する場を持つことである。中国・韓国へ旅行するのもいいだろう。ただ、観光旅行よりも個人旅行で直に中国人・韓国人に触れてほしい。あるいは中国人・韓国人の留学生と交流したり、旅行者に写真を撮ってあげたりして少しでも人間同士の接点を増やしてみたらと思う。今流行のおもてなしである。同じ人間であるということがことごとく感じられると思う。

三つ目は他国の悪口を言うより日本人が今まで築いてきた日本文化をもっと習得することである。お茶・お花・あるいは能や禅そして仏教や神道の宗教心の深化を図るべきである。

そうした地道な人間的努力が分厚い文化を創るのであると思う。

人間は誰しも他人のことをとやかく言うことが好きである。自分のことはさておいて他人のことを責める事に余念がない。他律はそもそもそれを感じる感性が必要である。

我々に求められるものは自律である。自分を律することができないものは他人のことをとやかく言うことをやめるべきである。常に自己反省に立って日々の生活を感謝して喜んで暮す必要があるのではないかと考える。